

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

# 子どもの貧困フォーラム

地域力で支える子どもの貧困・教育格差  
問題を考えましょう。

2014年11月16日  
華頂短期大学  
教授 流石 智子

主催：子どもの未来を考える会 共催：NPO法人ワーカーズコープ  
協力：立川市社会福祉協議会  
後援：立川市・立川市教育委員会・立川市子ども未来センター

1, 現代社会の状況を考えたことはありますか。

(1) 住みよい社会ですか。

- ・衣食住
- ・生活の充実《文化教養、気晴らし、ゆとりある生活》

(2) 平等の社会ですか。

- ・憲法等、法律の中での平等
- ・現実とのギャップ
- ・たとえば、女性と男性
- ・経済的に豊かな家庭、そうでない家庭

## 2, 現代のみんなの生活実態

### (1) 二極化の社会構造

豊かな家庭と貧しい家庭

日本は豊か、貧しい国




- ・ 現実の生活は、格差のなかで生活している。
- ・ 共働きで生活する・・・実態・・・でも  
女性「お嫁さん」になる？夢と現実

### 3, ひとり親家庭とは

- いいのか「ひとり親家庭」というくくりで。
- 母子家庭と父子家庭  
制度・・法律名「母子及び父子並びに寡婦福祉法」  
に改称。父子家庭への福祉の措置に関する章を創設。
- ジェンダーバイアスの影響を、母子家庭は顕著に受ける。  
たとえば、収入、労働条件、子育て、
- **ジェンダー視点を見落とさない支援策**

## 4, なぜ、子どもは貧困になるか

- ・ グローバル・・・国が貧困である。日本は。
- ・ 家庭が貧困であれば、子どもは貧困になる。
- ・ 親の貧困・・・親が悪い???
- ・ **とにかく、子どもの育つ家庭が豊かになること。**
- ・ 豊かとは、経済的なことはもちろん、精神的に豊かになる。  大変難しいこと。
- ・ 人間には、**価値観の違い**がある。でも、子どもを主体者と考えると子どものために何が必要かわかる。たとえば、子どもと一緒にいる時間。

## 5, 教育は最も大切なもの

- 教育を受けることができない。
- 子どもの未来の選択肢を狭める。自分の夢に近づく機会を奪うことにもなる。
- 教育の機会・・・子ども自身がやりたいことができる社会。
- 家庭の環境が教育の機会を少なくする。  
進学之梦・・・将来つきたい仕事
- 「子どもの貧困対策に関する大綱（平成26年8月29日閣議決定）」 ■（目的・理念）子どもの将来がその生まれた環境によって左右されることのないよう、また、貧困が世代を超えて連鎖することのないよう、必要な環境整備と教育の機会均等を図る。

## 6, ひとり親家庭や低所得家庭が生活しにくい社会とは

- ・ 親が働こうとしても働けない社会。
- ・ 働いても生活が苦しい。

ひとり親家庭の親の就労率

\* 母子家庭・・・80.6%の就労率

正規39.4%、非正規47.4%

\* 父子家庭・・・91.3%

正規67.2%、非正規8.0%

## 7, 貧困と教育の関係

- ・生活することによっていっばいの家庭では、教育を受ける機会が減る。
- ・連鎖をさせないことが大切。・・・たとえば
  - \* 貧困の連鎖は、家庭の形成に影響している。
  - \* 同じ階層同士が結婚して、家庭を築く。
  - \* 家庭の不安定な状況・・・経済的問題、DVや離婚、児童虐待、親の精神的不安定など。
- ・どうすれば、この連鎖を減少させることができるか。
  - \* 子どもが生活する家庭への支援（総合的に）



# 8, 子どもや親のために、地域でできることはたくさんあります。

\*大きな支援より、親や子ども達に寄り添える小さな支援

親の相談を受ける。  
場所と時間

どのような制度がある、私はどのような支援を受けることができるのか。  
周知の方法

子どもの教育支援  
学校以外での支援

働くための積極的支援。  
これからは仕事をつくりだす力を持つ。

公的制度の隙間をうめる支援

など

## 9, 子どもの幸せは、親が幸せでなければ成り立ちません。

- ・子どもを育てる責任は親にあります。親は子どもと共に育つのですから、がんばり過ぎないことです。
- ・子どもとの時間が大切にできることは、親にも子どもにも幸せと言えるでしょう。これを、「ゆとり」という・・・子どもはよく見ています。親の変化や行動を。

## 10、みんなでやればできる 地域力・・・かっぱの寺子屋の魅力

- ・学ぶ機会を増やす。
- ・子ども、親ともに居場所の確保
- ・連携とその広がり

\*地域での活動は、日本では発展途上である。

\*連携のなかで、地域活動が行われるとその効果は大きな広がりとなる。

\*公的制度との連携をしっかりと活動を企画することがこれからの子どもや親を支える力になる。

\*公的支援の充実に期待することは当然であるが。

\***子ども達の幸せのために**、できることをやりましょう。

独立行政法人福祉医療機構  
平成26年度社会福祉振興助成金

## 「教育格差問題の地域連携構築と 寺子屋モデル事業」

平成26年11月1日から  
小学生対象**無料塾「かっぱの寺子屋」**開講  
立川市社会福祉協議会・特定非営利活動法人  
ワーカーズコープ・子どもの未来を考える会  
との協働事業。

# フォーラムの主旨

- 日本ではいま、「子どもの貧困」が大きな社会問題となっており、その対策が問われています。  
2013年6月には、国会で「子どもの貧困対策推進法」が成立し、全国の自治体で動きが活発化しています。このように子どもの貧困対策の基盤が整備され、広がりを見せているなかで、私たちには何ができるのか、地域の皆さんといっしょに考えるために、“子どもの貧困と学習支援”フォーラムを開催することとしました。



委員長および講師の紹介

華頂短期大学 介護学科 学科長

# 流石智子 教授

社会学修士

専攻・専門分野：ひとり親家庭問題（母子福祉）、児童福祉、児童養護問題

保育問題（子育て・児童虐待）

所属学会：日本社会福祉学会、社会政策学会、日本子ども社会学会、日本乳幼児教育学会

研究テーマ：研究の中心は、「ひとり親家庭の問題」です。子どもの育ちとの関係で、「児童養護」「子育て支援」「家庭と子どもの育ち」についても研究をしています。

## 委員の紹介

好齢ビジネスパートナーズ 世話人

# 堀池喜一郎 氏

多摩CBネットワーク 世話人(2009～)

どこ竹@竹とんぼ教室 代表幹事 (2006～) 顧問 (2010～)

アクセシビリティ研究会(株国際社会経済研究所)委員(2009～)

### 地域事業における経験

- ・ NPO創設・法人化・三鷹市、企業ほかと協働事業立上(30件、6億円)。
- ・ 地域CBブロガー (200人)、竹とんぼ教室認定講師 (200人) 育成。
- ・ 「日経経地域情報化大賞」「経済産業大臣表彰」「文部科学大臣賞」を受賞。

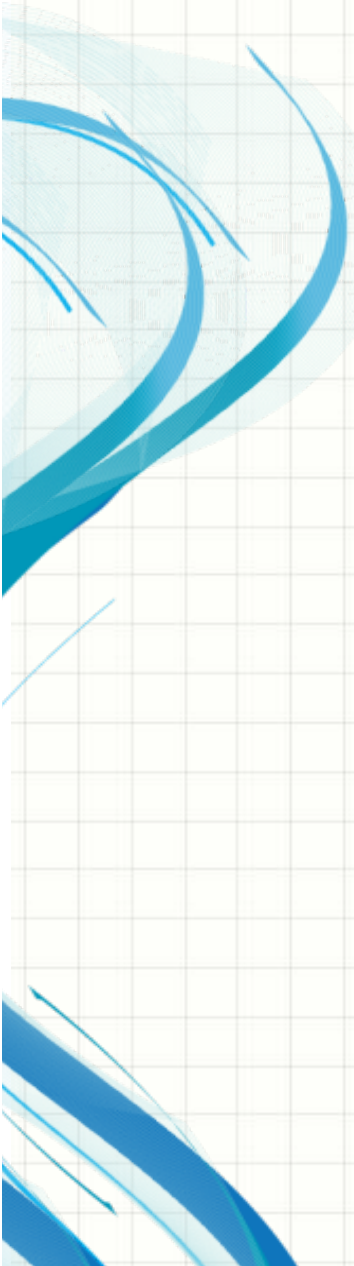
社会福祉法人 立川市社会福祉協議会  
市民活動センターたちかわ

# 早川 郁子 氏

立川市社会福祉協議会・市民活動センターたちかわにて、平成19年より地域福祉コーディネーターとして活動をしています。高齢者の介護予防、子育て支援、障がいがある人との活動、公衆衛生、防災の体制づくり等を住民や、自治会、ボランティア団体のみなさんと一緒に進めています。いずれも活動をする中で、多くの方の孤立防止や地域の自治力の発揮につながるように活動しています。

今回の協働企画は、意欲のある団体のみなさんと一緒に活動でき、また今後の地域活動にもつながるということもあり、とても貴重な機会だと思っています。このことを通じて、子どもたちを多くの大人の手とまなざしで育てるような、子どもも大人も心豊かな暮らしができるよう、協働の輪を広げていきたいと思えます。






特定非営利活動法人 ワーカーズコープ  
(日本労働者協同組合)

# 岩崎 正美 氏

平成24年12月より指定管理を受けている立川市子ども未来センター（地域子育て支援拠点事業）で子育て支援業務を行いながら、法人の理念である「地域に役立つ仕事を働く人や市民と一緒に作る」活動を行っています。法人は全国に約300の事業所を置き、事業内容は子育て・高齢・障がい・生活困窮者・施設運営・建物管理・物流等多岐にわたっており、立川市では児童館・学童保育と子ども未来センター、病院清掃の事業を行っています。現在は、肢体不自由者に特化した就労継続支援B型事業所「たちかわーく」を平成27年秋の開所を目指して準備を進めています。どんな環境や状況で生まれても、どの子どもも愛され大切に育まれ、自分らしく生きる権利があります。この機会を、どの人もお互いの芯を大切に思いあえる地域・社会にしていける力に変えていきたいと思ひます。



子どもの未来を考える会 代表

# 羽鳥 佳子

短大を卒業後、銀行に10年勤務し、出産のため退職。子育て中に、幼児教育に関心を持ち、幼児教育インストラクターの研修を受け、幼児の能力開発について学ぶ。

財団法人全国母子寡婦福祉団体協議会の事務局職員時代に、「母子家庭の母親のキャリア形成支援事業」、「養育費を確保するための調査研究事業」、「母子家庭の子どもの生活支援事業」の企画・運営に携わる。平成26年3月末までは、板橋区役所福祉部に所属し、生活保護世帯及び、ひとり親家庭の母親の自立支援のための就労支援相談員として従事。子どもの将来が、その生まれ育った環境によって左右されることのないよう、すべての子どもたちが健やかに育成される環境を目指して草の根活動を続けていきたいと考えています。

# 意見交換会

活動報告発表団体

# NPO法人 八王子つばめ塾

理事長 小宮 位之 様

- 経済的に苦しいご家庭の子ども達のために**無料**で学習支援を行っている塾です。  
事務局はじめ、全員**ボランティア**で運営しています。  
対象は**中学生、高校生**がメインです。  
授業は講師1名に対し生徒2～4名で個別指導を行い、学校の宿題、ワークから入試対策まで幅広く勉強します。学習内容が不十分な場合、学年をさかのぼって基礎から教えます。  
2012年9月に講師1名、生徒1名から始まり、今では生徒80名、講師55名、5教室を数えるまでになりました。
- 一完全にボランティアで教えてくれる講師から学んだ子どもたちが、「**いつか自分も人の役に立つ人になろう**」と思う「人材」に育つこと—これが八王子つばめ塾の大きな目標です。  
「つばめ」は、「またボランティアという巣に戻って来て欲しい」という願いからつけられました。

# 中野よもぎ塾

代表 大西 桃子 様

- 経済的な事情で、塾（家庭教師）に通っていない中学1～3年生を対象に、無料塾を開催しています。
- 「学校の授業についていきたい」「得意を伸ばし、苦手を克服したい」「未来を切り開くために勉強したい」、そんな中学生の皆さんに、ひとりひとりに合った学習指導を行います。

# NPO法人ワーカーズコープ 東京三多摩山梨事業本部

西多摩エリアマネージャー 杉山 由美 様

- 平成19年度～20年度 東京東部事業本部
- 墨田区 八広はなみずき学童クラブ 指導員
- 
- 平成21年度 東京三多摩事業本部
- 立川市 幸児童館 主任
- 
- 平成22年度～23年度 東京三多摩事業本部
- 福生市 熊川児童館長
- 
- 平成24年度 東京三多摩山梨事業本部
- 西多摩エリアマネージャー
- FUSSA地域福祉事業所長
- 福生市 熊川児童館長
- 
- 平成25年度 東京三多摩山梨事業本部
- 西多摩エリアマネージャー
- FUSSA地域福祉事業所長
- 放課後等デイサービス歩っ歩 管理者・児童発達支援管理責任者